

“ 当たり前のことを当たり前ができる” 社員の育成 - ビジネスパーソン当たり前基準ガイドブックのご提案 -

常識に欠ける人の増加が社会的問題になっています。これまでは、これを“**非常識な人**”と表現するのが一般的でしたが、近年は“**無常識な人**”とも言われることが多くなりました。

☒ 非常識とは：常識（社会的なルールやマナー）を知っている上で、守らないこと

☒ 無常識とは：そもそも常識を知らずに、無意識に問題行動をとってしまうこと

ここ数年で話題となった“バイトテロ”や、飲食店での客による迷惑行為は、“無常識”に当てはまるのかもしれませんが。なぜならば、自身の行動が問題であるとの自覚がなく、それを撮影して平気でSNSに投稿しているからです。

このような“無常識な人”が増えた原因は定かではありません。教育課程が変わったこと（いわゆるゆとり教育）や、新型コロナウイルスの影響（アルバイトや対面コミュニケーション機会の減少）、家庭環境の変化（自由・過保護）、SNSの普及でメディアリテラシーが低下している等、様々な原因が考えられます。

しかし、さらに問題なのは“無常識”のまま企業で働いていることです。例えば、以下が近年よくある“**無常識行動**”の例です。

遅刻や納期遅れの事前連絡をしない	緊急時の連絡をSNSのメッセージでする	カードケースと兼用の名刺入れを使用	ビジネスリュックを背負ったまま客先を訪問
社外秘情報を無断で持ち出す	私用のスマホからお客様に連絡する	SNSで自社やお客様の悪口を書く	業務時間中に寝る
上司の印鑑を勝手に使用する	会議室やエレベーター、タクシー等の席次を知らない（上司より先に入る）	クライアントと会う際、競合他社の製品を身につけて行く	お客様にお茶を片手で出す（両手を使うにもかかわらず）
封筒の宛名書きでミスをする（例：相手の住所を書かない）	机の上や身の回りが常に散らかっている	手帳を使わない（スマホの手帳アプリのみを使用）	退職の事前相談をしない（退職代行に依頼）

このように社員の無常識行動は、企業のモラルを問われるだけでなく、重大なコンプライアンス違反ともなりかねません。早急に改善が必要です。しかし、「常識」は人によって異なるため、指摘しても部下が素直に受け入れられないことも多々あります。そのため、上司や先輩も指導をためらってしまうケースは少なくありません。また、多忙な現場での徹底指導も簡単ではないでしょう。

そこで、活用できるのが弊社の「**ビジネスパーソン当たり前基準ガイドブック**」です。

このガイドブックは、ビジネスパーソンに必要な“当たり前”を体系的に整理しており、常識を身につけるにも最適な教材です。例えば、以下がガイドブックの内容例です。

企業人としての心構え、持つべき価値観	企業の仕組み（存続条件：6大施策）	基本行動(言葉遣い、挨拶、身だしなみ、持ち物、その他)	仕事の進め方(PDCA、コミュニケーション、報連相、その他)
お客様対応基本（名刺交換、訪問基本動作、電話のかけ方・受け方、席次、茶菓接待、会食マナー、慶弔マナー等）		ビジネス文書の基本（社内・社外文書、宛名書き、電子メール等）	情報人の基本（情報収集・選択・加工・発信・管理）

上記の通り、このガイドブックの内容を修得することで、“当たり前のことを当たり前に行う（常識のある）”社員の育成が可能です。

ご興味のある方は、下記リンク、またはQRコードよりお問い合わせください。

> お問い合わせはこちら

